

● 板垣 寛さん



— “たろし滝”が語る豊凶占い—

毎年2月頃になれば、石鳥谷町西部の奥羽山脈の中腹に“たろし滝”が出現する。古来800年も昔から、厳しい自然環境に生活してきた私どもの先輩たちは、その“たろし滝”の氷柱の太さによって稲作の豊凶を占ってきたと伝えられている。この興味深い話を私が聞いたのが昭和49年の秋のこと。以来26回にわたって、実際にその太さを測定・記録している。全くの自然の摂理の具現像と作況との関係などを検証しながら、次世代の米作りの指針の一助になればと思っている。

たろし滝の太さと作況

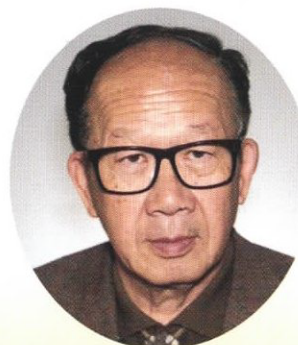
年次	太さ	作況指数		年次	太さ	作況指数	
		岩手県	北上川下流			岩手県	北上川下流
昭和50年	4.2m	109	110	昭和63年	5.0m	85	87
51年	3.5m	82	88	平成元年	計測不能	100	99
52年	6.5m	103	103	2年	5.0m	106	105
53年	8.0m	112	111	3年	計測不能	90	92
54年	計測不能	105	106	4年	計測不能	100	99
55年	3.5m	60	72	5年	計測不能	30	34
56年	6.0m	76	76	6年	4.4m	110	110
57年	計測不能	89	89	7年	4.7m	96	95
58年	4.8m	99	99	8年	計測不能	102	103
59年	7.0m	109	108	9年	3.9m	105	105
60年	7.8m	109	109	10年	6.3m	96	96
61年	6.4m	107	109	11年	4.0m	105	104
62年	計測不能	107	108	12年	計測不能		

測定日 2月14日 午前10時。
平成12年より 2月11日 午前10時。

計測後の会長川柳

平成3年 温暖化たろしの太り妨げる
平成4年 減反がこわくてたろしふとれない
平成5年 たろし滝無いので知恵でカバーする
平成6年 凶作の心配ないと云うたろし
平成7年 並作はかたいとたろし笑っている
平成8年 並作に夢を託せと云うたろし
平成9年 油断無く並の太さがそっと云い
平成10年 さあ大変減反増えるこの太さ
平成11年 まずまずの太さで秋に夢を馳せ
平成12年 米あまり心配してか姿消し

● 古澤 典夫さん



昭和3年盛岡市生まれ。昭和24年盛岡農専卒業後、岩手県立農業試験場で畑作・農業経営の試験研究に従事。また県農政部畑作園芸課長、農業短大副学長、農業試験場長を歴任。退官後は岩手経済連技術参与、岩手大学農学部非常勤講師を務める。畑作とくに雑穀関係の監修・編著・共著が数冊、他に『岩手の食事（代表）』、古農書『軽邑耕作鈔』など。昭和63年農業技術功労賞受賞。

農作物と豊凶と俚諺などに関心が深かったもので、たろし滝と私の予測との二説が新聞報道されたことがあり、板垣さんから意見を求められている。板垣さんが会長の「稲の会」で講演したこともある。